

## 注意事項

文責：入寮選考委員会

### 寮費の前払いについて

現在吉田寮では、寮費の前払いが行われています。現在の寮費は一月あたり約2500円(寄宿料・400円、自治会費・500円、水光熱費の負担区分・約1600円)となっています。入寮時あるいは年度はじめに、寮生は当年度分の寮費を一括して納入することになります。水光熱費の負担区分に関しては、使用量により、年度末に調整が行われます。また、年度途中で退寮する場合、毎月25日までに退寮手続きを終え、退寮すれば、次月以降の既に支払った寮費が返還されます。

### 部屋割り・セカンドハウスについて

吉田寮では毎年春に部屋替えが行われます。新入寮生は部屋割りが決定するまでは大部屋(旧印刷室、茶室、舎友室)で生活し、その後は入寮選考委員会の決定した部屋割りに従ってもらいます。秋季入寮生は既成の部屋割りの空きに割り振られることとなります。寮生同士の合意が有ろうと無かろうと、入寮選考委員会の承認無しに、割り当てられた部屋以外に住んではいけません。また、セカンドハウス(寮の外に生活の拠点がある)は、寮に住む必要がなく寮のスペースを圧迫するものであるため、禁止されています。勝手に部屋割りと違う部屋に住んでいる状態やセカンドハウスが発覚した場合には、退寮処分となる可能性があります。

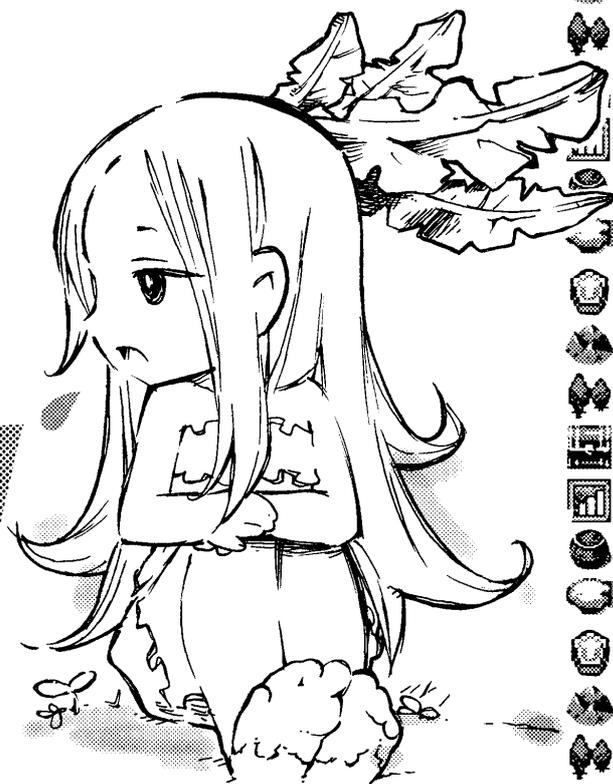
### ゴミについて

個人のゴミに関しては、各自で京都市の定めた方法に従って処理してください。京都市指定の有料ゴミ袋以外の袋に入れたゴミは回収されません。さらに最近、不要になった家具や家電の不当な投棄が目立っています。これらの処分にはお金がかかる場合があります、大変迷惑な行為です。大型ゴミなどは、各自でお金を出して業者に引き取ってもらって下さい。そもそも、入寮時に必要のない物を持って来ないことが大切です。吉田寮で生活してみて、「やっぱり要らない」と思われる物は結構あります。始めは着替えと洗面用具ぐらいがあれば充分でしょう。

2010年度



吉田寮  
入寮案内



みなさんこんにちは、吉田寮です。京都大学の福利厚生施設である寮は4つあり、吉田南構内にある吉田寮はその一つです。他の寮は熊野寮と、室町寮、女子寮です。吉田寮は自治寮で、寮に関わることは自分たちで話し合っで決めます。入寮面接など入寮募集に関わることも寮生自身が行います。このパンフレットを読んで少しでも興味を持ったら、実際に吉田寮（場所はパンフレット裏面参照）に来てみて下さいねー。

## 吉田寮入寮パンフレット 2010 目次（Web用）

00 注意事項 入寮選考委員会

01 表紙

02 目次

03 自治寮に住むこと 僕とあなたの建設的衝突 びがろ

04 話し合いが吉田寮の生業だ！ 執行委員会

05 相部屋考 峰

06 吉田寮の生活環境について しがらみ

07 吉田寮の老朽化問題 sdi

08 寮祭と白浜合宿 しがらみ

09 吉田寮の「上下関係」について考えてみた 南寮次郎ほか

10 吉田寮に対する誤解と偏見を解く たなタン

11 スラム吉田寮 ZR

12 寮生活はすごいぜ！ とある一回生

13 寮の匂い kota

14 吉田寮入寮案内 よしだりゅう

15 オフライン座談会「ウォンナノコの吉田寮生活」 NATO ほか

16 あるお年寄りの有難いお話 唐仁原俊博

17 吉田寮ネコ図鑑 J3

18 吉田寮の建替え・補修をめぐる問題について T

19 BUNKABU 紹介 成り上がり文化部長

20 厚生部概説 厚生部長

21 ショムニ！！ 庶務部長

22 こぞりて来たれ、大規模補修特別委員会へ！ 初代大補特C委員長

23 何ナンダ！土木作業！？ 大補特C

24 食残Cについて 食残C

25 君と世界の戦いでは何実に支援せよ

こうなったら何が何でも吉田寮を大規模補修してやる実行委員会代表

26 吉田寮の厨房は料理を作るところではありません。音楽を作るところです。

オガサハラオ

- 27 吉！絶好調！自力補修ライブ！
- 28 あなたは問われてなどいないと言い切りたいのだが、しかし、あなたは問われていると  
言いたくもなる 橘英希
- 29 2010募集要項
- 30 入寮願い
- 31 サイバースペースふにゃふにゃさん 寮の思い出 きじにんげん
- 32 珍客・カルメン タコス
- 33 吉田寮入寮パンフ用文章 しろー
- 34 寮に11年住んだ！！ 20世紀の残り者
- 35 やはりきみは何実に入るのがよろしかろう 萩原不避歩
- 36 白状文 寮猫クロ
- 37-1 パンフのボリュームアップのための文章 itoken
- 37-2 俺は年をとることは怖くない。 こうた
- 38 吉田寮の生活はどうじゃ？—素晴らしいです Jtr
- 39 吉田寮に三年住んで 平田朋義
- 40 吉田寮の“人”間関係 とある留学生の視点から
- 41 吉田寮の庭 ay
- 42 建築するならやっぱ春 黒森鯨
- 43 散歩ノ極意ハ迷子ニナル事ト見ツケタリ ミギワ
- 44 「クロネコヤマトの卓球便」
- 45 麻雀とわたし サトウ
- 46 麻雀のススメ itoken
- 47 Sクラス麻雀 入角晃太郎
- 48 ロケットの打ち上げを見に行くべき！ どうせ暇なんだろ！ 宮西
- 49 自分なりに頑張って集めたみた無限級数ランキング！ yshr
- 50 くびくびカフェに来たれ！ くびくび
- 51 吉田寮小史 執行委員会
- 52 背表紙

# 自治寮に住むこと 僕とあなたの建設的衝突

びがかる

## 0. はじめに

吉田寮は、経済的に困窮している学生が、お金がないことを理由に大学に行くのを断念してしまわないように、福利厚生施設として存在します。そして、吉田寮は自治寮であり、寮生の手で運営されています。ここでは、「自治って何をやってるの?」「寮に入ったら怪しい活動を強要されない?」等の不安に、「自治とは何か」を僕なりに言葉にしてみることで答えたいと思います。ことわっておくと、ここに書かれているのはあくまでも僕の考える「自治」です。すべて言葉で説明するのはとても難しいけれど、この文章、そしてパンフレット全体を読むことで、少しは自治の雰囲気や伝わるのではないかと期待しています。

## 1. 吉田寮は自治寮である

「吉田寮は、寮生の自治によって運営されている」。もちろん、吉田寮は京都大学によって設置されているのですが、その管理を大学にまかせるのが当たり前だとは思いません。

「自治による運営って具体的に何をやってるの?」と訊かれれば、それはもういろいろと挙げられます。入寮選考、部屋割り、寄宿料の徴収・大学への納入。生活上の問題について話し合ったり、大学との関係を考えたり（良好であるに越したことはない）、大掃除を企画したり、寮の備品を管理したり。低廉な寄宿料など、寮にとって大事なものを守るために、時には大きな声をあげて、大学に話し合いを求めることもあります。とにかく、「自分たちのことは自分たちで決めて取り組む」、これが自治による運営です。

## 2. 吉田寮自治会は寮生の〇〇を守るためにある

上にあげたような運営活動に取り組む主体として、寮生は「吉田寮自治会」を結成しています。寮生はすなわち自治会員。吉田寮として公式に何かをするとき、吉田寮自治会が寮生の総意をもって動いている、ということです。自治会を学校の生徒会と似たものと考えれば、少しイメージがわきやすいかと思います。自治会も生徒会も、その構成員の意見をまとめ、外部への意見表明や要求を行う点では同じと言えるでしょう。異なる点は、自治会にはその存立や運営に学校側の御膳立てがなく、学生自身がすべきことを考え引き継いでいく、という点です。また、多くの学校において、生徒会活動は役員や生徒に負担が集中するものだという勝手なイメージがあるのですが、こと吉田寮自治会においては寮生一人ひとりが主体的に考え行動する

ことが求められる、という点で大きく異なっています。

さて、自治会という団体として動くことは、じつはとても重要です。たとえば、寮費を値上げするという決定が大学からされたと考えてみましょう。一人ひとりの寮生の力は微々たるもの、大学の決定を覆せるほどの力を持つことは難しいでしょう。「吉田寮自治会」という団体として皆の知恵を出し合い、大学に話し合いを申し入れ、強く要求することによって、現実これまで寮の存続と安い寮費を勝ち取ってきたのです。

ここで言いたかったのは、大学に行けることを経済的に保証する福利厚生施設であることを維持するためにも、吉田寮は自治という運営形態を取っている、ということです。「吉田寮自治会は寮生の〇〇を守るためにある」の〇〇の部分に入る言葉は、(大雑把な言葉遣いでちょっと嫌だけれど)「利益」「権利」、あるいは「生活」と言えるでしょう。全国各地の大学で、安い寄宿料で生活できる寮が減っていく中、自治寮であることそれ自体が経済的弱者の切り捨てに歯止めをかけているとも言えるのです。

### 3. 大学との関係

さて、ここでは寮と大学がどのような関係にあるのかお話ししましょう。先ほど、自治会を高校までの生徒会に例えましたが、寮と大学の関係は、地方自治体と国の関係に似ていると思います。地方自治体(吉田寮)は国(京都大学)の一部であり、地方自治体の住民(寮生)であることは同時に国民(京都大学の構成員)である、ということです。だからと言って、地方自治体が必要以上に国から干渉を受けたり、国の方針から外れることを言えなかったりする理由にはなりません。

現在、京都大学は、吉田寮の自治による運営を認めています。と言っても無条件に確認されてきたものではなく、「寮生が運営や入寮選考を行うことなどを大学が認める」という約束を交わすことで維持されています。この約束のことを確約といい、団体交渉(団交)を行って、大学側の責任者に確約書へのサインをさせることで獲得します。これまで大学側の責任者が交代するたびに、この確約を引き継ぐ団交を行ってきました。

団交というと、労働組合がするもの、というイメージが強いだらうと思います。なぜ学生と大学の間で団交をするのか、疑問に思うかもしれませんね。でも、考えてみてください、決定権や強硬手段を圧倒的に持っているのは大学側です。その力の差をこちらの数の力で少しでも埋めて、少しでも対等な場に立つために、寮生だけでなく関心のある人はすべて参加できる大衆団交の形を取っているのです。

現在、大学とは敵対しているわけではありませんが、過去には吉田寮を潰す・潰させないで徹底的に争った歴史(1980年代の「在寮期限」闘争)があります。おおむね良好といえる

現在の関係も、それにあぐらをかいてはひどく非対称なものに変えられかねない、ということはお覚悟しておかなければなりません。

#### 4. 自治への参加

あなたが寮生になったなら、どのように自治に関わることが求められるのでしょうか。これを読んでいるあなたが一番気になっているだろう箇所にたどり着くまで、少し紙面を食いすぎた感がありますが…。ここでは自治活動への参加の仕方を紹介していきます。

分かりやすいものから挙げるなら、寮生の義務として、「意志決定の場に参加する」、「寮内の日常的な仕事を分担して負う」、というものがあります。また、義務ではありませんが、寮の中枢に関わる役員になることも挙げておきます。

##### 意志決定に参加する

###### ・総会（月2回）

寮に関わる様々な問題について話し合う場です。全寮生に出席が求められますが、欠席には委任状は要りません。意志決定を一部の寮生に背負わせてしまわないよう、できるだけ出席しましょう。多数決を取らずに、その場のだれもが納得するまで話し合うことが特徴です。

###### ・寮生大会（年2回）

半年間の総括・決算と次の半年の方針・予算案を採択します。寮の方針を決める重要な会議で、全寮生は出席義務があります。欠席の場合は委任状が必要です。自治会の活動の中で、ほとんど唯一の多数決を行う場です。

##### 仕事を分担する

###### ・専門部活動

文化部、厚生部、庶務部の専門部とその下の係・局のどれかに必ず所属し、寮内の仕事を分担します。それぞれの部・局の仕事内容については別頁に紹介記事があります。

##### 義務ではないけど、ぜひやってほしい

###### ・役員になる（任期：6か月）

執行委員会や入寮選考委員会など、寮において中心的な役割を担います。厳しい仕事のように聞こえますが、入寮一年目でも、経験者と一緒に仕事を覚えながらやっていけます。任期中はそれ相応の時間は費やすこととなりますが、きちんと仕事を分担して、無理して仕事を抱え込んだりしなければ、学業に支障をきたすことはありません。

忙しかったり、活動する時間が合わなかったりして（例えば総会は午後 9 時から行われています）上で挙げた形での参加が難しくても、様々な方法で自治に寄与することはできます。大学との交渉に参加する、共有スペースをきれいに使う、寮内で何が問題となっているのか他の寮生と話す、大掃除に参加するといったことなども、自治への参加の仕方の一つであると思います。

僕が寮生となるあなたに求めるのは、サービスを受けるだけの「お客様」にならないでほしい、ということです。寮生は全員対等です。自治活動に取り組むのも、頑張ればその分給料が出るからではありません。あなたが恩恵を受けたなら、その分同じ寮生である誰かが働いています。この寮が存続していることだって、誰かの頑張りの成果です。寮に住んで少しでも恩恵を得ていると思ったなら、寮のために少しでも自分ができることをしてほしい、と思います。

## 5. おわりに

寮自治会の活動は、「寮生の生活／利益を守る」という目的から外れることはありません。僕は、「京都大学の学籍を持つ人ならだれでも」入寮資格を持ち、多種多様な人が一緒に暮らしているこの寮で、「寮生の生活／利益を守る」という最小公倍数であり最大公約数を越えた所に自治を行うことはできないと考えています。

この文章でうまく吉田寮での自治について伝えられたかどうか自信がありませんが、読んでくれたあなたの中で、自治寮という言葉から胡散臭さを脱臭できたのなら幸いです。自分たちの手で自分たちの住む場所を運営するということは、まったく大それたことではありません。

もっと自分の経験した自治の楽しさについて触れられれば良かったのですが、このパンフレットには自治寮を舞台に生きている楽しい奴らが楽しいことを好きなように書いているので、それはきっとにじみ出ていることでしょう。

今日もまた、自治空間に飛び込んでくるあなたを待ちかまえています。

## 話し合いが吉田寮での生業だ！

執行委員会

吉田寮は基本的にだれでも来れて、なんでもできる「自由な」場所です。吉田寮では問題が起きたら当事者間での話し合いで解決するという解決方法をとっていて、これを行う気がある人ならばだれも拒まない場所です。これは自分たちのことは自分たちで考え、運営するという「自治・自主管理」を実際に行うために決定の場から排除される人をできるだけなくすという意味を持っています。話し合う気さえあれば決定の場に加わることができる場だからこそ、自分たちのことを自分たちで考えることができるのだと思います。

例えば、吉田寮には大部屋（多目的ホール）がいくつかあります。ここは基本的にだれが何の目的で使ってもいい場所で、会議やら飲み会やら麻雀やら宿泊者の宿泊場所やら、いろいろな使われ方をします。すると当然、大部屋を使う人の間で問題が起き得ます。麻雀をやりたい人間と早く寝たい人間が同時に存在する空間。そんなときにどうやって解決するか？すぐに思いつく方法として、寮についてのいろいろに判断を下す（警察みたいな）組織を置いて、その組織の判断を仰ぐというものがあります。しかし吉田寮ではこのような組織は置いていないし、一般にこのような解決方法を好ましくないと考えています。というのも、今困っている当事者は麻雀を打ちたい人と、早く寝たい人であり、どうするのが一番二人にとってよいのかを判断できるのはその二人だと思うからです。同様のこととして、「一般」とか「常識」を持ち出して「こうするべきだ」という理屈もへんだと思います。なぜ私とあなたの間の問題を考えるとどこかの誰かの考えが力を持つのでしょうか。～がこういうからとかはナシにして二人がどうしたいのかをちゃんと考えませんか。そしてそれができるような場を作っていきたいと考えています。

とはいえ、この方法にも問題があります。冒頭で話し合いの原則は決定の場から排除されることをなくすためのものだと述べましたが、話し合いを基盤にするからこそ生じてしまう排除の構造があります。国籍や性別や年齢や性格、もしくは単純に数が多い／少ないなどによって意見を言いづらいと感じてしまい、理不尽に「自由」を害される（話し合う気はあるのに決定の場に関われない）人が存在することです。当然意見はいわれないと反映しようがないのだからこのようなことが起きるのは仕方がないと思う人もいます。ですが、意見を言いづらい人が生じる構造は確かにある（大部屋で飲み会をしているのに対して静かに寝たいと一人で主張するのは容易ではないだろう）のだから、それを意識することなしに「話し合いをする気はある」というのはなにか気持ち悪いと思います。

勘違いしないでほしいのは、ここで書いたのは両者が楽しく生活できるようにする方法であるということです。自主規制してだれにも迷惑をかけないようにするのは自分が楽しくない。かといって、自分は楽しんで、傍には不満を持ちながらもどうにもできない人がいる、というのもなんだか気持ち悪い。このどちらにも陥らないように、多少面倒でも話し合っ解決した方が楽しく過ごせるのではないかという話です。

## 相部屋考

峰

自分が最初相部屋についてどのようなイメージを持っていたのかも思い出せないのだが、寮に見学に来る人の多くは「一部屋に何人くらいですか」と聞くことが多いので、きっと相部屋というと一部屋を一定の人数で共有する形態を連想するのがポピュラーなのではないかと思う。他の大学の寮のウェブサイトを見てみても一部屋あたりの収容人数が明記してある場合が少なくない。

翻って吉田寮の場合、一人当たりのスペースは大体決まっているが、部屋あたりの人数はまちまちである。部屋の広さがまちまちだからという理由のほかにも、多くの場合は2部屋3人など、いくつかの部屋を何人かで共有することになるためというのが、わかりやすく一律一部屋何人という話にならない原因として大きい。いつからこうしているのかは知らないが、これはある面で現実的である。人が皆夜寝て朝起きるとは限らないし、その時々寮生の人数で床面積を割ったときにきれいに一部屋一部屋均等に割り振れるようにはなかなかないのだから、それでもなお不便を感じにくく、均等に割り振るために、適当な値になるまで部屋の面積を足し合わせてそれを適当な人数で割るという方法をとっているわけである。

さて、例えば電子レンジや掃除機といった生活用品は、多くの場合部屋ないし生活単位にひとつあれば事足りるものであり、人数分なくてはならないものではない。相部屋の利点として昔からよく言われることとして、この「必需品の共有による経済的負担の軽減」というものがある。私は座椅子とちゃぶ台を共有に付し、同じく共有に付された炊飯器や電子レンジを使って日々生活している。

経済的負担という視点以外にも、生活空間を共有することから他者との接点が生じ、それをきっかけに自分の世界が広がることもある。私の今年度の相部屋相手には音楽や映画に詳しい人、文学研究科博士後期課程で哲学の研究をしている人、マンガやアニメに日々知識関心を広げている人などがいて、私は彼らから少しずつ、時に強い影響を受けて関心方面を広げることができたように思う。

以上の素描からわかるように、なにも相部屋制度のためばかりではないが、吉田寮では誰かと共有することでわざわざ買わずに済むものや安く済むものがあったり、自分の学部や専門の枠にとられない様々な文脈での交流があたりしうる。反面オートロックのマンションのようなセキュリティはないしプライバシーなど保障されてはいない。<sup>24</sup> 時間誰かと常に顔を合わせて生活することになりうるし、そのためにいさかいに発展することだって十分にありうる。

なべて物事はそれを評価する人がどう見るかによってどのようにも語られうるものである。相部屋制度にしたところで、ある程度積極的に受け容れる気がなければいい部分として捉えることが可能なことでも悪い面ばかりが際立って見えるし、わざわざそのように受け取る努力を払う価値をそもそも見出さない人だっただけでしかるべきである。硬直した価値観が他者に絶望感を与えるのと同様に、ある集団が一様な価値観を無批判に受け容れていることは大層気持ちの悪いことだ。吉田寮における相部屋はそうした賛否両論を踏まえた上で、建物のキャパシティの問題や現在の意思決定システムの維持のために一定敷かざるを得ない制度として施行されている。それを個々人が面白いもの、価値あるものとして捉えるか、はたまた単なる必要悪として捉えるかは、また別の問題

である。

私は、だから結局個人的な好悪を述べるに留まるが、例えば新入寮生として初めて体験した至近距離での人間関係（それは私にとって同時に、背景文化や母語の異なる人との日常的なコミュニケーションという側面においてもほとんど初めての体験であった）において、適正な距離を保つことに極めて困難を覚えたことであったり、個人的習慣として物事の優先順位が一致しない他者と同じ空間を共有することの難しさといった、思い通りにならなかったことも含めて、代えがたい貴重な経験をしてきたと思う。

つまるところ私の場合は、私にとって糧になった部分、楽しかった部分が、思い通りにならなかったところや嫌だったところを上回った、というふうにも言えるが、おそらくそういう天秤問題だけではない。これらすべては「他者」との接触であることから生じ得、かつそれ以外ではあり得ない、自らの外部にさらされる経験であると言ってもいいだろう。逆説的なことかもしれないが、例えば外国に住み始めるなどして異なる文化に放り込まれるより、母語を共有し出身地域もさほど遠くない人と同じ部屋で暮らすことのほうが、余程自分の価値観の相対性をつきつけられることになる、と言っている。

思い起こす5年前の今頃、私はもうほとんど決まったこととして吉田寮に入寮することを考えていた。赤本に載っている京大の General Information に寮の名前と所在地、諸費用が載っていて、その安さと近さに驚愕したものであった。情報としてはせいぜいそのくらいである。インターネットで検索していたらまた捉え方が違っていったかもしれないが、私はそれすらもしないくらいに想像力を欠いていた。いわんや、そうした他者との接触を具体的にイメージできようはずがない。私をとりまくことになるあらゆることに対して全くの無防備なままに、それまで一切経験のなかった距離感のレンジに自らを放り込んでしまった。

人はあらゆる、時として自分自身すら含む「他者」について、決してその心内表象を正確に把握することはできないし、ゆえに関係性を厳密に対称にすることは断じて不可能である。可能だと思ったときには自分自身の権力性に対する想像力の欠如を疑うべきだ。そしてその上で、いかに想像を事実で補い続けても決して到達することのない認識の彼岸に、あらゆる他者は存在する。

話せばわかるなんて嘘っぱちだ。決して他人の考えていることなんてわからない。そのときそのときにおけるわかったつもりの妥当なラインに到達したという勝手な判断があるだけだ。その無限の距離を介在する至近距離の人間関係は、私の思考を常にかき回し、妨害し、そして牽引した。姿すら見えず外延を規定することのできないその「他者」に、しかし、人は多くの場合抛って立たざるを得ない。なにも何人も自分ひとりではどんな価値判断も下すことができないなどとは言わないが、わかってもらったことにならなければ言葉は発されても価値を持たないということは、これまで絶えず痛感してきた。そのために、お互いにわかったつもりになることで、同じ表象を共有したというサインを送り合うのである。そのサインは人が生きていくあらゆる局面で、極めてよく似た、しかし固有の、形容しつくしがたい形を持って存在する。

コミュニケーションが実質的には共通理解成立のサインのやりとりに支えられた、手探りの表象の照合作業であることと、関係性が厳密には対象にならないこととは、本来別のことである。別の次元に属する問題であると言ってもいいのかもしれない。だが両者は無視できない接点を持つ。本来対称でない関係を意識的に対称にする

ことが不可能なのは、関係性に対する認識を意識的に一致させることができず、さらにそれを確認することができないからである。そして、おそらくそれだけが原因ではないのだが、そのサインをあたかも投げつけるのかのとき攻撃的なコミュニケーションが生まれてみたり、権力性への警戒を権力的に表明し要求するという、説明しようと思うと入り組んでしまうメタ的狀況が発生したりする。

これから吉田寮を訪れるならば、寮自治会の公式の言明や、関係者の私的な考えとして、対話による問題解決が必須条件であることや、対等な関係性を確保することの重要さとその実現の様子とかについていろいろ話を聞く機会があるかもしれない。そしてまた実感として、相部屋になった人とてんで話が通じなかったら当然しんどいし、むやみと居丈高にあれこれ命じてくるような権力的な人に従わざるを得ないような状況に陥るのも避けたい。そういう断絶や権力性に対して、自治会はこれまでずっと敏感であろうと努力してきた。努力だけはしてきたと思う。

それはある意味で、決して無駄だとか間違っているとかは思わない。相互理解の不可能性を原理的に信じ続けていたら、またそれが組織的に行なわれていたら、それはそれは恐ろしいことのように思う。またそれゆえ権力性の排除は不可能なので排除する努力をやめることにしてしまったら、それもまたわかりやすく居心地の悪い空間が生まれそうである。だが、おそらくすぐに見えてくる。対話による問題解決も対等な関係性も、姿も見えず手も届かない彼岸の他者に向かう間に、それそのものすら手から零れ落ちてしまうのである。なにも想像しづらい話ではないと思う。相手が何を思っているのかわからない以上、相手が自分の話す作法や語勢、話している内容に恐怖したり嫌悪感を覚えたりしていることに気づかないことなんていくらでもあるし、そもそもそういう局所的な関係性の変化が人間関係から排除可能なはずはない。人は怒りもすれば泣きもする。そしてまた、相手が理解の像を結んでいなさそうだったり、相手の言っていることがよくわからなかったり、自分のほうが上になる非対称性が生まれていたりしても、それをいちいち問題にせず、困ったことにはならなそうなレベルであればいいかと思ってしまう機会は途方もなく多い。相手の脳味噌を引きずり出して直接読んだり書き込んだりしてやりたいと思うことがある一方で、だ。

以上のような話は、相部屋生活からのみ感じたことではない。無限の距離を介在する至近距離の人間関係は、寮内の至るところに存在するし、そしてまた決して避けられないものでもないと思う。正直なところ、こういうことを考える必要がどうしてもあるかと言われれば、私は疑問すら抱かない。所詮は市場経済によって早晚淘汰される人間のたわごとである。

こんなにいるいろいろごちゃごちゃ考えなくても、相部屋相手と過剰な干渉と断絶を避けながらうまく距離を保ちつつ、互いの有形無形の財産を共有しながら、一人での生活では味わえないいろんな面白いことや助け合うことを経験できたら、きっと幸せなんじゃないかな。

実感レベルでのアドバイスとして、吉田寮の事務室にあるとあるマンガの台詞を引用して結びたい。長々とどうもありがとう。

「狭いから適度な無関心が重要なよ」

## 吉田寮の生活環境について

文：しがらみ

吉田寮は木造二階建てで、現存する大学の寮の中では日本最古のものなんですね。大学の敷地内にあるので、講義室、研究室、図書館、生協の食堂が近く大変便利です。四共という1、2回生がよく使う講義棟までは、歩いて20秒とかかりません。

吉田寮は南寮、中寮、北寮に分かれていて、全部で部屋は120室位あります。各寮の間には、鬱蒼とした草木が生えていて、梅雨の時期には、さながら熱帯雨林のような趣を見せます。吉田寮では相部屋が基本で、3人2部屋や4人3部屋がよくあるタイプです。たとえば、僕の場合だと3人2部屋で、一つを居間、もう一つを寝る部屋として使っています。寮に入った一年目は相部屋生活ですが、二年目からは、個室を希望すれば通る場合もあります。南寮と中寮の間にあるプレハブも居室となっています。各階にはそれぞれ、炊事場、勉強部屋が設けられています。また、吉田寮では、寮生有志がネット会というものを立ち上げていて、年4千円程でインターネットに接続することが可能。他にも、以下のような部屋があります。

旧印刷部屋（略して旧印）…印刷機は見当たりません。普段は、会議をしたり、鍋をしたり、新入寮生の溜まり場でもあります。おとこの新入寮生が自分の部屋が決まるまで生活する部屋です。

事務室…事務室ではありません。漫画が大量に置いてあります。ざっと5000冊程はあります。現在も漫画は増殖中。漫画を読んだり、だべったり、会議をしたり、勉強したり…。

受付…事務員さんがいる部屋。朝日、京都、毎日、読売の新聞四紙が読めます。（新聞は受付の外に持ち出さないようにしてくださいね。）鍋をしたりもします。

ゲーム部屋…各種ゲーム機（音ゲーやパソゲーもあり）揃ってます。夜には電子音が響き渡る不夜城と化します。もと応接室です。

茶室…茶会は開かれておりません。ここも、旧印同様、おとこの新入寮生が始めに生活する場です。

舎友室…おんなの新入寮生が始めに生活する部屋です。

暗室…細長くて狭くて暗くて、ちょっとあやしい小部屋。

麻雀部屋…はい、名前の通りですね。

ビリヤード部屋…使えないビリヤードが置かれています。映画を上映したり、卓球をしたりできます。最近は、あまり使われていなかったのですが、有志が2010年度から住み始めることとなり、これから、場がどんどん開発される期待大。

食堂…現在は、ライブや、演劇など各種催し物が開かれます。昨年は、「吉田寮ほぼ百周年祭」が行われました。学内、学外のサークル、団体に開かれ、京大の中では貴重な

活動場所となっています。食堂の歴史については吉田寮小史を参照されたし。

屋根裏…どこにあるかは来てのお楽しみ。

厨房…主に、音楽バンドの練習に用いられています。

シャワー室…じゃじゃまる、ぴっころ、ぼろりの三室。二十四時間使えます。吉田寮にはお風呂がないので、湯船にゆっくり浸かりたいときは近くの銭湯へ。

脱衣所…洗濯機が6台ほど置かれています。いつでも使えます。

さらに、吉田寮の中には、サークルBOXが2つあり、京大機械研究会と、鳥人間コンテストに毎回出場しているバードマン（Shooting Stars）の部室があります。

最後に、“寮裏”について説明します。“寮裏”とは吉田寮の東南側、歩いて5分くらいの圏内のことです。寮生の生活とは切っても切り離せないお店が集中しています。以下それらを紹介します。

ファミリーマート…コンビニだけど2時に閉まるので要注意。

銭湯…平安湯、銀座湯がある。個人的には、ちょっと遠いけど常盤湯がオススメ。

定食屋…寮裏には、安価で量の多い定食屋が揃っています。以下、いくつか。（食事については、炊事場で自炊する、又は、生協に行くのもよし、畑があるので栽培してもよし、豚を飼育してもよし）

丸二食堂…安くて、ボリュームのある定食屋。フライ盛り合わせ（580円）は、相当お腹が空いてないと、ぼくには食べきれません。

MIZUHO…質の高い洋食屋。鶏肉や魚のグリルやカツが食べられます。

キャラバン…学生が多く集まる定食屋。日曜もあいているので便利。

キャンディー…こじんまりした喫茶店。日替わり定食（630円）は、なかなかおいしい。

末広食堂…コロッケ定食など。質素なお店。

輪泉…少し遠いせいもあるのか、あんまり知られていないけど結構うまい。

ほかにも色々あるので自分のお気に入りのお店、みつけてくださ〜い。

老朽化問題。吉田寮でよく耳にする単語だ。見ての通り吉田寮は老朽化している。このボロさがいやだという人や、壊れそうで怖いという人もいるかと思う。寮内に残ったかつての学生運動などのビラとあいまった、なんともいえない雰囲気が好きだという人もいるようだ。なぜここまでボロいのか？

時はさかのぼり、1980年頃。このころ大学によって「吉田寮は老朽化して危険なので住むな。今の吉田寮は壊して新しく建て直す」と決定された（実はこれはうそで、実際は単なる自治寮つぶしだった）。しかし、寮生や寮外生、学部自治会をはじめ多くの人たちの反対により中止された。吉田寮が老朽化していたのはその通りなのだが、だったら壊して新しくすればいいという単純な話ではなかったのだ。吉田寮という場所を純粹に安い下宿として、社会問題を考える場として、自分を表現する場として、ほかにも各々の意義を見出して切実に必要としている多くの人が現にいる。そんな場所を何も考えずにこわしてしまうことの何と恐ろしく、またもったいないことか。

しかし、放っておけば吉田寮の老朽化は進み、いずれ本当に壊れて使えなくなってしまうかもしれない。その前に大学によって再び「危険だから住むな」通告がされるかもしれない。どちらにせよ吉田寮に見出されてきた意義はほとんど失われてしまうだろう。そうなるのはたまらないということで、80年代以降老朽化問題の解決が吉田寮の課題となり続け、吉田寮は大学に対して建て替えを要求するとともに、どうすれば意義を守りながら老朽化問題を解決できるか考え、大学に対して主張してきた。2002～2006年頃には今の建物を補修して使い続けるという案が検討され、着工直前まで進んだが、大学内の都合でふいになってしまった。

吉田寮がここまで老朽化してしまった要因としてもう一つ挙げられることに手入れが十分行われなかったことがある。吉田寮のような木造の建築物は定期的に手入れすることが前提である。にもかかわらず大学は十分な手入れを行ってこなかった。これに対して補修して今の建物を使い続ける可能性を探り、実これまで行われなかった個人レベルでできる補修を自分たちで進め、大学に要求しようという運動が寮内で起こっている。

ここでは、吉田寮で毎年恒例となっている寮祭と白浜合宿について紹介します。

## 寮祭

毎年5月中旬程に行われる寮祭。寮生、寮外生問わず、多くの人たちを巻き込んで開催されます。恒例の企画は、次の通り。

寮祭芝居…誰かが台本を書いて寮生、寮外生、経験、非経験問わずみんなで劇をします。役者をしないと味わえない面白さあり。

ストーム…吉田寮生一体となって熊野寮に攻め込んで、受付のマイクを奪い取りに行きます。熊野寮が、こちらに攻め込んでくることもあり。押せや、押せやの怒号がトラメガから響き渡り、両軍相乱れる修羅場と化します。生卵を熊野寮生の背中に思いっきりぶつけてやったのは、ぼくのよき思い出。

仮装決起、仮装行列…仮装して、授業に乱入してアピールを行います。その後、学内を、♪よしだりよーさい、よしだりよ～さい、わーい、わーい、たのし～な、よしだりよーさい、よしだりよ～さい、わーい、わーい、たのし～な、おーぶれーねり、あなーたのおうちはどこ～、わたーしのおうちはよしーだりょうよ……♪（100回ほど繰り返す）と、吉田寮祭の歌を歌いながら、練り歩きます。

バラバーラ…日替わりの店長が、食堂で腕をふるって、晩御飯を提供。

ヒッチレース…名古屋、淡路島や、六甲の山の中など、遠いところに車で連れていかれて、（目的地が知らされることはない。）そこから寮までヒッチハイクで帰ってくるまでの時間を競います。

鴨川レース…鴨川の水の中に入り、三条から出町柳のデルタまで、川登り。足を襲う水圧に苦しみながら前進する二十人ほどの落ち武者に、毎年川岸で佇むカップルから熱い声援が飛びます（ウソ）。鴨川は場所によっては深さが1メートルくらいになるところもあるので要注意。

また、寮祭ライブや、映画上映会、麻雀大会もメジャーな企画です。

ほかにも、ヘタパン主義同盟、中島みゆき 24 時間拝借、デフレラーメン、吉田寮小学校、クスノキ徐霊などの、企画が過去にはありました。ぜひ自分オリジナルのものを創ってみてください。

## 白浜合宿

京大は和歌山県の景勝地白浜に海の家を持っていて、安価で泊られます。吉田寮では、毎年夏休み期間中に、車に分譲して行き、(中には炎天下の中、自転車で行く者もあり) 4、5 日ほど海の家泊まります。海の家では、目と鼻の先に、浜辺が広がっていて、いつでも泳ぐことが可能。管理人さんの“海の家のおばちゃん”は、海の家がリニューアルされ、非常に快適になっても、おばちゃんぶりに何ら変化はありません。泳ぎ、寝て、そしてまた泳ぎ、海鮮丼を食べたり、魚を捕まえて食したり、空港そばの空き地で間近で飛行機の離着陸を眺めたり、花火を見たり、水族館に行ったり、このときばかりは童心にかえって、夏を満喫する白浜合宿です。

以上が寮祭と白浜合宿の紹介でした。これ以外にも、寮では、新歓コンパ、クリスマスパーティー、長野の白馬合宿や、突発的に開かれる、鍋やイベントあり。入寮したら、(入寮しなくても) ぜひ、参加して吉田寮を楽しんでくださいね。

## 吉田寮の「上下関係」について話してみた

南寮次郎・快樂びしゃ門天・やまうち・柔道散弾・びがる

次郎：こないだ、寮に入って、いろいろ人間関係のことについて感じ方が変わったみたいな話をしてたけど、ちょっと今日はそのへんの話について、いろいろと話してみたりしようかな。たとえば、いろんな年齢のひとが寮にはいるけど、まあそのへんとかを切り口に。

快樂：寮内のみんなが敬語を使わずにしゃべってたから誰が年寄りでとか誰が若いとかわかんなかった。

やまうち：そういう人もいたけど2・3回生の人だとはっきりと上下感が分かるというか、歳とか学年がわかるから自然と意識しちゃうけどな。

快樂：なんか、たしかに2・3回生敬語つかうひと多いね。

やまうち：それより上だと全員まとまって上って感じ。そのひとたちの上下は全然感じられないし、そのひとたちがひとまとまりみたいに見えるな。実際上下や年齢的上下とか。

次郎：うん、目上・目下みたいなものはほとんどないけど、やっぱり「寮に入りこんでる感」のちがいは年季によってやっぱりあるかなー。

快樂：それって、年季の問題なの？

柔道：違うだろー。

びがる：誰かがいった言葉を借りるなら、「密度」？ 時間的な。

次郎：ああ、そうか、そういういいかたのいい気はするなあ。

びがる：たぶん、2・3回生がうえに敬語を使いがち、っていうのは、敬語を使う・使わないの話が寮でされなくなってきた時期が関係あるかな、と。2・3回生「に」使われがちなのは、敬語を使う対象として、高校とか、サークルとかで刷り込まれてたりというのもあるんじゃない？ それよりもっと上って寮以外であんまり会う機会ないしね。あとは、入寮当初の、「お世話する」「お世話される」と感じる体験によるのでは？

やまうち：しょっちゅうなんかを聞く相手とか、頼る相手だと、タメで話しくいかなー。

びがる：もともと敬語を使う相手って、敬うに足る「何かを与えてくれる」「何かやっててかっこ

いいな」という感じに基づいて敬い始めるものだと思う。

次郎：そのうえで、長いこと寮にいるような人間とタメで話しつつも、いろいろ教わったり触発されたりするのはすごく趣深いなあ、などとも思うよ。だから、必ずしも「すごい」イコール敬語とか上下関係にも結びつかないってことがわかるのは面白いし貴重な経験だった。10歳年上の人間にいろいろ教えてもらったりすごい影響を受けたり。それでも、気兼ねなくタメで話したり、こだわりなく遊べる相手だったり。

やまうち：上下関係っておれの語感だと、けっこう重い感じがして、すくなくとも俺の感じだと、敬語をつかうからそういう感じだという訳でもないんだよね。敬語っていっても丁寧語だけど。

快樂：部活に入っていると、先輩は絶対に必ず上。だから敬語を使わなきゃいけない、ということが暗黙の了解としてある気がする。

やまうち：それってけっこう無理して使わされてる感とかあるの？

快樂：つかわないと、そこで「何で敬語じゃないの」と聞かれるもん。

やまうち：おれは自然と年上だったら敬語がでて、タメでしゃべりたいという気は自然と起こってはこなくて。まあ単純にそんなに親しくなかったらタメでしゃべりたいとも思わないけどなあ、そのへんなんかこの議題に対する問題意識をおれは共有してない気がする。

快樂：まあ親しくなったら敬語を使わなくなるってことかもしれないけど、それはあくまで同年代の話であって、「先輩」ってものにはどんなに仲良くなっても敬語を使わなきゃいけない空気があると思う。

次郎：敬語って、「目上」に対しても使うっていう側面もあるし、距離感の遠い相手に使うっていう側面もあるよね。そのうえで、実際には二つの側面が混ざってつかわれたりもすると思うんだけど。

快樂：だから、吉田寮では「敬語は使わなくていいよ、てか使わないでくれた方が嬉しい」って直接言ってくれて、片方の側面が潰されているのが最初はビックリした！いまは慣れたけど。

びがる：部活の中で、すごく仲好くなった感じは共有できてるのに、敬語が続く、っていうのになんかもどかしさを感じたこともあったよ。それから、もうやめちゃったんだけど、やってた部活で、2 学年上に寮生がいたんだよね。だんだん僕が寮内で敬語を使わなくなっていく中で、そのひとにどうやって話そうかな、って迷ってた。寮内ではよく話す人だし、でも部活内では、その人との間だけならよくても、まわりの「先輩なら敬語だろ」という空気の中でタメ口はきき

にくいなあ、っていう板挟み。その頃は、部活では敬語、寮内ではタメ、っていう二重構造だった。でも部活止める直前は、僕と同回生のやつがその人に敬語を使ってる方が不自然に感じてた。その時、部活内の人と「敬語使わなくていいよ」って共有できそうにないなあ、その話をするのはしんどそうだなあ、と思って、ちょっと部活から心が離れて行ったかな。部活止めた主な理由は、単純に寮周辺でいろいろ動いて遊ぶ方が楽しかったからなんだけどね。

次郎：不自然といえば、寮で僕とふつうにタメ口でしゃべっている人の同級生が僕の研究室にいるんだけど、そのひとは僕に対してすごく丁寧に敬語をつかったり、あらたまてあいさつしてくれるんだけど、そういう二人を同時に思い浮かべてみると、歳や学年についての意識とか敬語って、ものすごい人工物なんだなーと実感したりする。

やまうち：強要されるのはもちろん悪いんだけど、強要されずに自然にできるものだったら「いい・悪い」みたいなものでなくて、「自然・不自然」っていうレベルかな。お互いにとって自然・不自然であったり、周りにとって自然・不自然というか。

次郎：うん、そのうえで自然とか不自然がどこから出てくるのかっていうと、けっきょく関係性の作り方の問題でもあるかな、と。上下関係がはっきりしているか、もしくはそのあたりが緩くて比較的対等か、とか。もちろん、部活とか研究室とか場所の関係性って頑張ってもどうしようもならないところもあったりするけど、ある程度、土壌のある寮内では、やっぱり対等な関係を目指していきたいな。もちろん、寮内でしか相手とそういう関係が築けないのは息苦しいので、寮外でもなんとかゲリラ的に頑張りたいけど。そもそも吉田寮を聖域化して、「寮のなかだから対等だ」というのもおかしな話だし。

快楽：それってでも難しくない？どうしても「寮内では」ってなりがちだなあ。

柔道：それはそうなんだけど、そう言って寮内に閉じこもるよりは、逐一その「寮内では」こうだ、ってこととか、いわゆる「普通」な場でやりとりされる「常識」だとかに違和感がある、ってことを伝えていくことが小さいけど着実に重要な一歩だと思うんだ。どうしても寮以外のコミュニティでは当然の顔をしてまかり通っていることがあるけど、それに対して違和感を感じる人がいて、ある場ではそうではない共通認識がある、ってことを知ること自体がその「常識」の中で生きてきた人にはすごいショックだったりするし。あとは、小学校とか中学校とか、そういう年頃から多分押し付けられてきたものに一度として疑問を抱かなかったか、っていうとそうでもない人もたくさんいると思うし、そういう自分自身の中にもあった疑問、違和感を思い出すこと

があればいいんじゃないかな、って思う。「敬語を使わないことがいいことだ」っていうのを押し付けるんじゃなくて、披露することでそれに触れた人自身が考えるきっかけになればいいんだから。

やまうち：強要はされるといやだけど、別に違和感を感じることはなかった。就学前からそういうしつけをされてきたからだと思うけど。それに対して、いやだと思わないし。

柔道：そういう常識をあらためて疑ってみるっていうか、それがどうして自分のなかにあるのか、なぜそれを選択しているのかということを考えるのが大学っていう時間かなあ。

やまうち：それはある気がする。あらゆることに関してそれはあるね。

柔道：んーと、つまり当然だと思って、いやだとも思っていないんだけどよくよく考えるとあれ？ っておもうことっているあると思うんだよなあ。それは当然じゃない、って主張する人の意見も知った上で、何かを自分で選択したらいいんじゃないかなあ。

やまうち：まあそういうことを常識だとか当然だとかいうふうに扱ってるひとには、単純に言うだけじゃ伝わらないかなあ。だって「常識、当然」だからね。その辺は本当に直接経験みたいな大きな衝撃がないと本当の意味では伝わらない。まあおれには伝わってないから言ってるのかな、そういうこと、はっきりしなくて悪いけど・・・

次郎：うん、だからやっぱり繰り返すけどあくまで関係性の問題で。常識とされている人間関係を、理屈で説得して変えるとかじゃなくて、ましてや「反常識」みたいなものを「吉田寮の常識」としてお題目みたいに伝えるのでもなくて、実際にいっしょに話したりちゃんと遊んだりすることそのもののなかで、こだわりのない関わり方が作られるなら、「上下関係ってほんとにくだらないな」と自然と実感できるようになってくると思う。「敬語いらない、対等にいこうぜ」というのも、お題目とか押し付けとかじゃなくて、あくまで個々人どうしのそういう関わり方が前提としてあるからこそ、かと。

やまうち：こういうふうには話しているのを見せるっていうのが意味を持つことではあるけど、そのうえで結局は自分の経験とか入ってきてから自分でどう考えるか、どういう人とどういう話をするのかというのが関わってくるから結局は継続的にいっしょに考えようぜってことになるかな。

次郎：以上の話に共感したり反発したり、そのほかにもいろいろ感じる人がいると思うけど、そういう人たちとこの続きの話ができればいいなあ。入寮する人とはこれから一緒に暮らすなか

でたくさん話をしたいし、寮に入らない人にも吉田寮に遊びに来てもらって、思うところを語りあいたいな、などと思うわけです。というわけで、このパンフを読んでいるあなたへ。僕たちはあなたを待ってます。来たれ、吉田寮へ！！

## 吉田寮に対する誤解と偏見を解く

たなタン

寮に住んでいると、社会には吉田寮に対する根も葉もない誤解や偏見があることを実感します。本小文の趣旨は、わたしが経験したものを一通りとりあげて、社会に蔓延している誤解や偏見を解いておこう、というものです。

Q 酒をむりに、飲まされるんじゃない？

A いいえ。寮生は、人に無理やり飲ませるような酒はない、と考えているようです。わたしが知る限り1回だけ、「おまえ、ここで飲むか、ここで死ぬかどっちだ？」という、おそろしい、やり取りがあったと聞いていますが、それくらいです。そのときは「勘弁してくださいよー。」といったら勘弁してもらえたそうです。

Q 先輩を立てないといけないんじゃない？

A いいえ。吉田寮において、学年は関係なく、個人対個人の関係です。わたしは入寮して長いこと経つのですが、先日、1回生の人に「だまれ！こぞうっ!!(注)」と一喝されました(^\_^)。そんな、ゆかいなところです。(注 映画『もののけ姫』の中のセリフだったそうです)

Q なんか思想を押し付けられるんじゃない？

A いいえ。むしろ、〇〇サークルは、宗教団体のダミーサークルだ、といった情報が入ってきます。だから、そのようなものを回避できる可能性があります。

Q 卒業できなくなるんじゃない？

A いいえ。本人の努力や、学部によるところが大きいです。そもそも4年で卒業しなければならぬなどという決まりはありません。しかし、4年で卒業する人はおおぜいいます。

Q 寮生は、アヤシイ人と思われて就職できないんじゃない？

A いいえ。公務員試験(Ⅱ種)の霞ヶ関での官庁訪問の際に、面接官に「あんなところに長年いられるやつは、体が丈夫に違いない」と言われて、某省庁から採用の内定を得た人がいます(まあ、それだけが決め手になったわけではないでしょうけれども)。そのときには、「食堂のみそ汁には、まだ、キャベツが大量に入っているのか？」とも聞かれたそうです。「え？寮に住んでいらしたんですか？」とうかがったところ、「いやあ、わしは体を壊すと思ったので入っていない(^\_^)」との返事。不景気でも、なんとかなるようです。

その人が、別の省庁の京大OBに会いに行ったときには、「わたしも寮食ライブ(寮食堂でなされるライブ、寮生も寮外生も色々参加する)で、バンドをやってみて…。あそこは、お客さんと演者との距離が近くていいところですね。」という話になって、一挙に和んだそうです。

また、この人に限らず、これまでに、おおぜいの人が就職しています。

Q 建て替えるってほんと？

A この問いについては、別紙をご参照ください。

この小文によって、少しでも、受験生諸氏の吉田寮に対する誤解や偏見が解けたらいいな、と思います。

では、受験生の皆さん!! Good luck!! そして、ぜひ吉田寮へ!!